

思いやり意識に影響される上下方向性の日中比較

日本語の授受補助動詞を中心に

周莉莉*

Comparison of Japanese and Chinese about the direction of up and down influenced by the idea of consideration between giving and accepting

with a focus on the verbs of giving and accepting in Japanese

Lili Zhou*

Abstract

In 『Comparison of Japanese and Chinese about the direction of up and down in the relationship between giving and accepting』, it's said about the expression of giving and accepting in Japanese, there's a complicated system like honorific and un-honorific expression, so there's the direction of up and down in the relationship between giving and accepting. So if there's the direction of up and down in the dialogues, the honorific expression like 「～てあげる/さしあげる」「～てくださる」 must be used frequently. But from the survey with 21 novels, it's found that Japanese doesn't use those honorific expressions usually. As a result, it's clear that although in Japanese there's the direction of up and down, the direction is influenced by the idea of consideration. But how this idea does it? And is Chinese the same as Japanese?

In this paper, the comparison of Japanese and Chinese will be looked at with a focus on the verbs of giving and accepting in Japanese.

キーワード：授受関係、上下方向性、思いやり意識、影響、日中比較

1 はじめに

『授受関係における上下方向性の日中比較』¹では、「日本語授受補助動詞は体系的な敬語及び非敬語の区分があり、上下方向性を持つから、授受関係も上下方向性を持つのである。」という結論が出たのである。従って、日常会話に上下方向性が存在していれば、敬語である「～てあげる/さしあげる」、「～てくださる」などがきつと盛んに使われると思われる。しかし、『中日対訳コーパス』²に収録されている『雪国』、『砂の女』など二十一冊の日本語小説の原文及び中国語訳文を基に、日本語の授受補助動詞を中心に調べた結果、「～てあげる/さしあげる」、「～てくださる」が敬語でありながら、あまり使用されていないことが明らかになった。その故、日本語の授受関係においては、上下方向性が確かに存在しているものの、思いやり³意識に左右されていることは明確であると思われる。一方、その意識は一体どのように影響をもたらすか、日本語に対応する中国語表現は同じなのか、思いやり意識に影響される上下方向性の日中比較を考察してみたいと思う。

* 教養部

2 小説における使用率のずいぶん低い「～てあげる/さしあげる」

二十一冊の日本語小説における授受補助動詞文を調査した結果、「～てあげる」の使用率がずいぶん低いことが分かり、そのうち、使用率がゼロである小説は十冊もあり、使用数が十文以下のは九冊、十文以上のは二冊しかないのである。そして、「～てさしあげる」の使用例を確認すると、驚くほど二十一冊の小説には、五文しかないことである。それらの使い頻度をより簡単明瞭にさせるために、次の図1を作り出した。

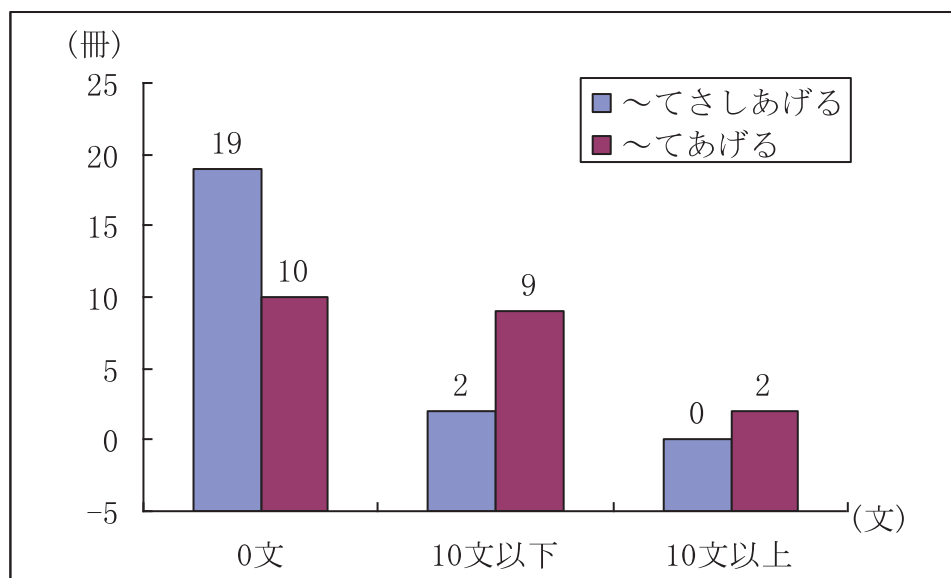


図1 小説における「～てあげる/さしあげる」の使用状況

低い使用率の原因についても、『授受関係における恩恵方向性転換の日中比較』⁴で分析してみた通りであるが、「～てあげる/さしあげる」がいくら敬語的な言い方であっても、人に恩着せがましい感じを与えてしまうため、思いやり意識の強い日本語ではできるだけ使わないようにしているのである。ここでは、それについてはもう少し詳しく考察してみることにする。

3 「～てあげる/さしあげる」及びそれに対応する中国語表現の比較

『日本語なんでも相談』⁵には「～てさしあげる」に関して次のように述べている。
 [補助動詞]・・・好意をもって相手に恩恵をほどこす意を表す。補助動詞「あげる」よりさらに敬意を含めている。
 この説明の言わんとするところを具体的な例⁶で考えてみよう。商店の店員が客から品物をいつ届けてくれるかと聞かれたとして、次のどれで答えるのが適当なのか。

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 夕方までに、お届けします。 | 傍晚之前，给您送过去。 |
| ② 夕方までに、届けてあげます。 | 傍晚之前，给您送过去。 |
| ③ 方までに、届けてさしあげます。 | 傍晚之前，给您送过去。 |

①では授受補助動詞が用いられていないので、恩恵の方向性がないのに対して、②では授受補助動詞の「～てあげる」が敬語ではないため、下から上への恩恵移動がないが、そして③では敬語の「～てさし上げる」が使用されることによって、恩恵が下の店員から上の客さんへと移動することに明らかになっているので、客さんに尊敬の意がもっと現れるのではないと思ひ、③を選ぶ中国人の日本語学習者が少なくもないのである。

が、『日本語なんでも相談』は日本人にとっては、言うまでもなく、①が最も適当であると述べている。なぜなら、②と③は、相手に恩恵をほどこすという含みを強く感じさせ、客のほうに負い目がある場合を除いて、おおむね、“恩着せがましい”、“尊大ぶった”といった印象を与えるからである。そのため、「～てあげる/さしあげる」の使用率が非常に低いのである。また、②と③とを比べると、後者のほうがずっと丁寧であるが、それだけにかえって、“慇懃無礼”となり、前者より抵抗感はむしろ強くなってしまふ。従って、相手のことを思いやって考えているため、小説においては、「～てあげる」は多少使われるのに対して、「～てさしあげる」はほとんど使われていないのである。その故、日本語は、上下方向性が生活のやりとりに実に存在していても、相手に対する思いやりのことで、やはりなるべく避けていることである。一方、中国語の訳文を見てみると、いずれも同じものであり、「給+您」⁷の使いによって、恩恵が下の店員から上の客へと動くことになっている。中国語には思いやりが全くないと言えないが、思いやりよりは相手に対する敬意がさらに強いため、上下方向性は一切影響されていないのである。

4 小説における使用率の非常に低い「～てくださる」

日本語授受補助動詞文を集めるうちに、もう一つのことに気づいた。それは、21 冊の日本語小説を調べてみた結果、「～てくださる」の使用率は非常に低いであるということである。その使い頻度をより簡単明瞭にさせるために、次の図2を作り出した。

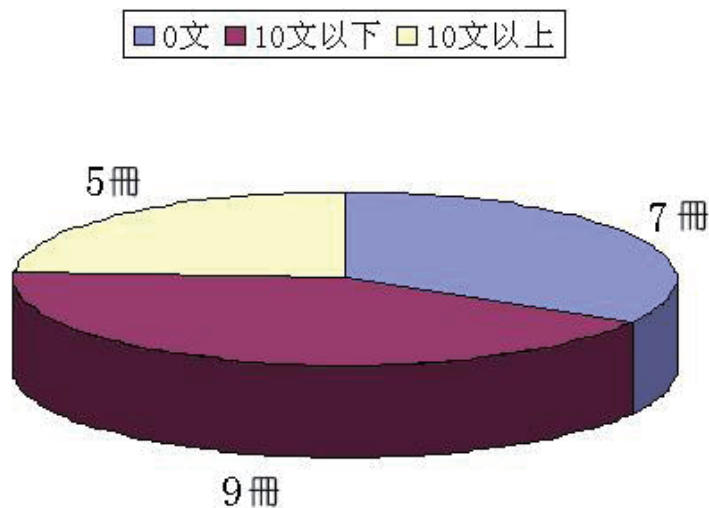


図2 小説における「～てくださる」の使用状況

しかし、今まで習った文法によると、目上の人が自分のために進んで何かをする場合では、その人に感謝及び敬意の気持ちを表すには「～てくださる」を使うと言われる。例えば、

『日本語表現文型』⁸においては、「～てくれる/くださる」について、「他者Aから話し手Bへと行為が授受されることを表す。Aが目上やあまり親しくない人の場合には、「てくださる」を用いてAに敬意を払うことができる」と述べているが、菊地康人は『上下待遇表現』の記述⁹及び『敬語』では、尊敬語の「～てくださる」は主語を高める機能と、主語を補語より高くする機能という二つの機能を持っている⁹と指摘した。

そのため、実際に、普通の会話では、上の文法通りに「～てくださる」を使い、相手に対する敬意を表しながら、話を進めていく中国人の学習者はかなりいるのではないと思われる。

しかし、調べた小説では「～てくださる」が全く用いられていないとは言えないが、「～てくれる」と比べて、やはり使用率がかなり低いと思う。では、その原因について、次の例文を分析しながら、少し考察してみようと思っている。

5 「～てくださる」及びそれに対応する中国語表現の比較

資料を調べてみると、日本語では目上の意志などをあらわにした表現を避けるほうが丁寧に感じられる傾向があるので、目上の与え手の意志による授受であっても、目下が望んだことで授受が成立したと表現しようと、「～てくださる」を避けて、その代わりに「～いただく」を選ぶことは少なくないという解釈¹⁰があるというのである。この点がより明らかなのは、次の例である。

④ すみません、資料をまだ送ってくださっていないんですが。×

不好意思，资料您还没给我送过来吧？

⑤ すみません、資料をまだ送っていただいていないんですが。○

例④では、受け手が受け取る行為を怠った可能性もあるが、目上の与え手が与える行為を忘れていた可能性もある。だがその点をあからさまに指摘すると礼を欠くため、「くださって」を避けて、例⑤の「いただいて」という受け手に理由があるという形式がよく選ばれる。すなわち、相手への思いやり意識がしっかり日本語に粘着しているため、例④では、「～て下さる」の使いで、恩恵が目上の相手から積極的に目下の話し手のほうへ動くのに対して、例⑤では、「～ていただく」の使いによって、恩恵の上下移動は目下の働きかけで消極的に動くことになっている。一方、中国語では、「您+给+我」¹¹の使いで、恩恵は目上の相手から進んで目下の話し手へ動くが、否定の「还没」の使用で、その上下移動は目上のせいではまだ動いていないという事実をありのままに述べるのは、極普通である。

6 まとめ

以上、授受関係を扱う際に、日中両国語では、思いやり意識に影響される上下方向性に関して、比較分析を試みたが、両者の異同点を表で示すと、以下の通りである。

表 思いやり意識に影響される上下方向性の日中比較

共通点	無		
相違点	日本語	思いやり意識からの影響	有
		影響の仕方	「～てさし上げる」の不使用 下から上への移動 → 無 「～てくださる」→「～ていただく」 積極的な上下移動 → 消極的な上下移動
	中国語	思いやり意識からの影響	無
		影響の仕方	無

つまり、日本語では、上下方向性は、完全に独立的に表現されることではなく、思いやり意識からある程度の影響を受けながら、適当に表現されるのである。このような意識を隠している日本語の授受表現は、単に授受関係を述べるだけではなく、相手に対する思いやりのおかげで暖かい雰囲気も溢れていると思う。それに対して、中国語では、上下方向性の表現は、そういう考慮がなく、完全に独立的に表されるのである。以上の比較から、日本人思いやり意識の強さをさらに理解できるのであろう。一方、客観的な言い方で授受関係を表す中国語の授受表現にはそういう考慮がそれほどないため、相手に少し冷たい感じをもたらすかもしれないが、日本人の思いやりを理解し、よく頭に入れるなら、日本語らしい表現が上手にできるに違いない。

注釈

- 『福井工業大学研究紀要』第42号 2012
- 企画・開発機関 北京日本学研究中心 研究代表者 徐一平 馮志偉 嚴安生 収録内容 中国

- 23 篇、日本 22 篇とその訳本を合わせて 105 件 2003 年 7 月
- 3 『広辞苑』P.404 によると、「思いやり」とは「自分の身に比べて人の身について思うこと、相手の立場や気持ちを理解しようとする心」と言われている。
- 4 『福井工業大学研究紀要』第41号 2011 ISSN 1884-4456 pp.534-541
- 5 監修者 水谷修 編者 月刊日本語編集部(1990) 『日本語なんでも相談』 株式会社 アルク pp.109-117
- 6 監修者 水谷修 編者 月刊日本語編集部(1990)『日本語なんでも相談』 株式会社 アルク P.114
- 7 『福井工業大学研究紀要』第42号 2012
- 8 森田良行 松木正恵(1989年) 『日本語表現文型』 株式会社 アルク pp.295-298
- 9 菊地康人(1980) 「「上下待遇表現」の記述」 『国語学』122 国語学会
菊地康人(1994) 『敬語』 角川書店 pp.162-163
- 10 新屋映子 守屋三千代(2003年)『日本語運用文法』 pp.128-148 によるものである。
- 11 『福井工業大学研究紀要』第42号 2012

例文の出所

- ①、②、③ 監修者 水谷修 編者 月刊日本語編集部(1990)『日本語なんでも相談』
株式会社 アルク P.114
- ④、⑤ 新屋映子 守屋三千代(2003年)『日本語運用文法』P.132

参考文献

- 1、企画・開発機関 北京日本学研究中心 研究代表者 徐一平, 馮志偉, 嚴安生 中日対訳コーパス 収録内容 『雪国』、『坊ちゃん』、『こころ』、『あした来る人』、『越前竹人形』、『布団』、『雁の寺』、『破戒』、『鼻』、『金閣寺』、『ノルウェイの森』、『黒い雨』、『野火』、『羅正門』、『青春の蹉跎』、『飼育』、『死者の奢り』、『砂の女』、『斜陽』、『痴人の愛』、『友情』 日本 22 篇とその訳本 2003.7
- 2、『広辞苑』 新村出版 1998年 岩波書店
- 3、菊地康人 「「上下待遇表現」の記述」 『国語学』122 1980年 国語学会
- 4、菊地康人 『敬語』 1994年 角川書店
- 5、新屋映子 守屋三千代 『日本語運用文法』 2003年 株式会社 凡人社,
- 6、森田良行 松木正恵(1989年) 『日本語表現文型』 株式会社 アルク
- 7、監修者 水谷修 編者 月刊日本語編集部 『日本語なんでも相談』 1990年 株式会社 アルク

(平成 24 年 3 月 31 日受理)